

医療安全管理者による入院患者の骨折件数減少に向けた取り組み

常味良一¹⁾ 風晴俊之²⁾ 高橋陽子³⁾ 美原盤⁴⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 医療安全管理室

2) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 事務部

3) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 看護部

4) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 脳神経内科

[はじめに]入院患者の骨折は、入院期間を延長させるのみならず、ADL等の予後にも影響を与える可能性がある。骨折予防対策の多くは、転倒・転落を減らすことに限定されがちである。しかし、転倒・転落件数を減らすことはできても、ゼロにすることは不可能であり、これを理解した上で骨折予防対策を検討することが求められる。令和4年度から医療安全管理者が代わり、転倒対策を見直したことで転倒・転落および骨折件数を減らすことができたため報告する。

[取り組み]まず、医療安全管理者は、転倒事例について骨折に至らなくても骨折の可能性が高かった事例について、骨折していたかもしれないと仮定して、RCA分析を行った。この分析結果に基づき、転倒・転落を減らすため転倒・転落防止対策のフローチャートを作成、これに伴い離床センサーを増台した。さらに、骨折を減らすために、低床ベッドにする際には衝撃吸収マットを敷くことを徹底させた。加えて医療安全管理者による巡回を強化し、決めごとが守られているか毎日確認するようになった。

[方法]令和元年度から令和5年度の5年間において、月平均転倒・転落件数、年間骨折発生件数、転倒に対する骨折率について調査した。

[結果]月の転倒件数は令和元年度から順に 18.8 ± 5.0 件、 18.8 ± 7.1 件、 18.0 ± 4.3 件、 17.5 ± 8.0 件、 12.1 ± 3.4 件であり、令和5年度は令和元年度および令和3年度と比較して優位に少なく($p < 0.05$)、令和2年度と比較しても低下傾向を示した($p < 0.1$)。骨折発生件数は5件、3件、4件、1件、1件と令和4年度から減少し、転倒に対する骨折率も、令和3年度までは2%程度であったが、令和4年度以降は1%未満となった。

[考察]令和4度には骨折者数、令和5年度には転倒者数を減らすことに成功した。必ずしも転倒者を減らすことが骨折者を減らすことにつながるのではなく、転倒しても骨折しないという視点を持って対策を立てることが重要である。